

(様式3-2) 調査研究活動記録票(先進地視察又は現地調査に要する経費)

NO.1

嬉野市議会議員

諸井 義人

開催月日	令和5年2月13日(月)		
開催時期	13時～17時		
開催場所	茨城県境町役場4階会議室および遠隔監視センター		
主催者	茨城県境町役場4階会議室および遠隔監視センター		
研修会等の名称	境町が進める地方創生(自動運転バス運行について)		
講師等の氏名等	境町町長 橋本正裕 氏		
内容・結果等	<p>【目的】 嬉野市では、未来技術地域実装事業の一つとして自動運転モビリティの計画が進んでいる。2020年11月より自動運転バスの運行を行っておられる茨城県境町の視察研修を行った。境町は茨城県の西南部に位置しており、鉄道路線がなく自動車地域住民の交通手段を支えている町である。</p> <p>【内容】 自動運転バスは、2020年11月より開始され、2路線(8km、6km)を時速20kmで運行し、無事故運行を継続している。運用開始当初は、渋滞が多く発生し、無理な追い越しのケースがあったが、バス停の位置を変えて追い越しやすくするなど、最高速度は変えずに渋滞を減らす工夫を重ねた。利用料金は無料で、ふるさと納税と補助金活用により町の持ち出しは0で運営されている。年間利用者は約5300人であり、地域での効果として、買い物に行けるようになった、塾の送り迎えが要らなくなった、免許返納の見通しがついたなどの効果が出ている。橋本町長によると自動運転バスは、地域住民が育てるものと言われる。自動運転バスは、交通弱者である高齢者などが利便性を十分に享受するためには町民全体がその役割を認識し、協力する姿勢を持つこと言われている。</p> <p>【まとめと感想】 嬉野市は、昨年9月に開業した嬉野温泉駅に新幹線を利用して訪れる旅行者や高齢者等の交通政策が課題となっている。その解決策の一つとして自動運転バスを考えることは意味があると思う。九州で初の自動運転バスとなると、話題性や実用性の点においても観光資源の一つとなると思える。しかし、住民の理解を得るには多くの課題を払拭しなければならない。今後の実装実験等を期待を持って注視して行きたい。</p>		
上記活動に要した経費	経費の内容	支払先	金額(円)
	旅費・宿泊費	祐徳旅行株式会社(宿泊パック)	41,350
	旅費(都内～境町)	東京モノレール、JR他	7,320
	合計		48,670

※裏面に領収書、開催通知等を貼付のうえ、実績報告書の支出明細に添付すること。

会議や研修等の資料についても整理保管すること